

# 幼稚園における体育指導者のあり方について

木本 知歩 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 松山 尚道

キーワード：幼稚園 外部体育指導者 専任体育指導者

## 1. 緒言

近年、体育専門の指導者が運動指導を行っている幼稚園が多くある。指導者の雇用形態は各幼稚園によって異なり、外部体育指導者もしくは専任体育指導者の場合がある。

そこで本研究では、外部体育指導者と専任体育指導者に着目し、それぞれの特徴を明らかにする。また、幼稚園における運動指導の実態を踏まえ、幼稚園での運動指導に適した体育指導者のあり方を検討することを目的とした。

## 2. 研究方法

幼稚園の園長先生(4園)を対象に、運動指導の内容や体育指導者に関するアンケート調査を実施した。

## 3. 結果と考察

### 1) 体育指導者の特徴

外部体育指導者は、専門的な運動指導ができるため指導が分かりやすいという特徴があった。しかし、子どもの状況をきちんと把握できないという問題が挙げられていた。一方、専任体育指導者は子どもと過ごす時間多いため、子どもの特長を理解した上で運動指導ができ、子どもとの関係も築きやすいという特徴があった。しかし、専任体育指導者として雇用するためには、雇用費用がないといった金銭的な問題や運動指導だけの雇用はできないといった勤務上の問題が挙げられていた。このようにどちらの体育指導者も良い点がある一方で悪い点もある。どちらの体育指導者を雇用する場合でも、それぞれの問題点を解決する必要があるだろう。そのため、それぞれの体育指導者を雇用する上で起こる問題の解決方法を提案する

(表 1).

表 1 体育指導者の問題点とその解決方法

	問題点	解決方法
外部体育指導者	・子どもの状況を把握できない	・幼稚園教諭と外部体育指導者が連携を取る
専任体育指導者	・雇用費用がかかる(金銭的な問題) ・運動指導だけの雇用不可(勤務上の問題)	・国や地方自治体に援助してもらう ・幼稚園教員免許を取得する

### 2) 幼稚園に必要な体育指導者

どの幼稚園も、子どものことを第一に考えられ、子どもの特長やその日の状況を把握し理解できる体育指導者を必要としていた。この条件に合うのは専任体育指導者であると考えられる。しかし、専任体育指導者を雇用するには、解決が容易でない問題がある。そのため、体育指導者の条件である「子どもの把握」が一番できる幼稚園教諭が、運動指導を行えるようになることが一番理想的なあり方ではないかと考える。

## 4. まとめ

1) 外部体育指導者と専任体育指導者、どちらの体育指導者が良いとは一概に言えなかった。どちらを雇用する場合でも、問題の解決が必要となる。

2) 幼稚園における体育指導者の理想的なあり方は、幼稚園教諭が運動指導を行えるようになることだと考える。

## 5. 主要参考文献

1) 吉田伊津美／岩崎洋子(2012)：幼稚園における運動指導の実態と教員の運動指導に対する意識，国公立幼稚園と私立幼稚園との比較，東京学芸大学紀要総合教育科学系，63(1)，107 - 113.